



場所:大垣市綾里地区センター 和室

503-0984 岐阜県大垣市綾野6丁目111-1

**参加費:無料**

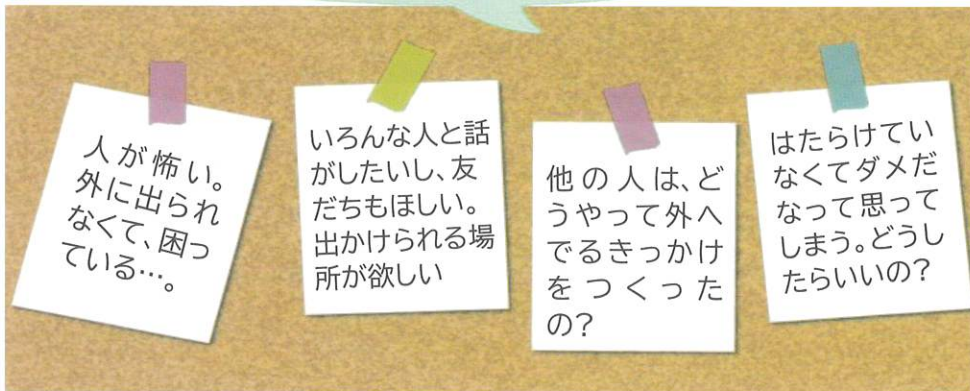
年齢不問 事前申し込みも不要

でんでんむしの会には、元当事者でサポート役のメンバーが複数待機していますので安心してお越しください。家族の同伴も可。となりの「会議室」では、「家族の会」も行っています。

みんなと話しませんか?

### 2023年度の予定

8月27日(日)	いずれも
9月24日(日)	13:30~16:00
10月22日(日)	途中参加、中抜け、早退も大丈夫です。
11月26日(日)	*変更になる場合があります。初めて参加の方はお問合せください。
12月24日(日)	
1月は未定	
2月25日(日)	
3月24日(日)	



人が怖い。外に出られなくて、困っている…。

いろいろな人と話したいし、友だちもほしい。出かけられる場所が欲しい

他の人は、どうやって外へ出るきっかけをつくったの?

はたらけていなくてダメだなんて思ってしまう。どうしたらいいの?

呼びかけ…生きづらさを抱えて立ちすくむあなたへ

ひきこもったり、生きづらさを感じている人たちに、安心して集まって、話せる場所、いつ来てもいいし、いつ帰ってもいい月に一日だけの居場所『でんでんむしの会』です。

最初からうまくなじめるわけではないけれど、それでも参加していただいたみなさんに、楽しかったなあと感じてもらえ、次も参加したいなあ、と思ってもらえる日になりますようにと願っています。

悩んでいるのは自分だけじゃないとわかるだけでも少し気持ちが楽になれるかもしれません。お会いできることを楽しみにしています。



オンライン居場所申し込み



## オンラインでの居場所もあります

ZOOMを使って交流します  
オンライン居場所は、3つあります。

- ① 「ぐだぐだトーク」…ほぼ毎週金曜日の午後1時~3時まで。テーマはなく、その時に話したいことをみんなでお話しています。みんなのしゃべり場です。
- ② 「学び座」…月に1回、夜8時~10時。
- ③ 「みんなで哲学」…月に1回、夜7時~9時。

■3つのオンライン居場所は、誰でも参加ができます。県内各地からの参加者がいます。

■ID、パスワード発行のため、事前申し込みが必要です。

右のQRコードか、メール( [info-popolo@qc.commufa.jp](mailto:info-popolo@qc.commufa.jp) )まで「参加希望」とお知らせください。

問い合わせ ■NPO法人 仕事工房ポポロ  
岐阜市八代3丁目27-8 Tel 058-337-0701  
問い合わせ 090-7432-9158 (中川)まで

この「でんでんむしの会」と「オンライン居場所」は、岐阜県から(一社)よりそいネットワークが受託し、子ども、若者支援のNPO法人仕事工房ポポロが運営しています。

あなたは「でんでんむしのかなしみ」というおはなしを知っていますか？「ごんぎつね」のおはなしで知られた新美南吉さんの作品で80年以上も前に書かれ、今でも多くの方に読まれています。

「でんでんむしの会」は、このおはなしにちなんで名づけました。誰もがたくさんの悩みや苦しみを抱えています。「みんなちがって みんないい」という有名なフレーズは金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」にあります。この世にあるものは、誰一人、なに一つ、同じものはなく、だからこそみんなすばらしい、ということです。一方で「みんなちがうけれど みんなおなじ」ということもあります。このおはなしの中に出てくるでんでんむしは、悩みや苦しみの中身はみんな違うけれど、違っても自分と同じように悩み、苦しみを抱えながら生きているということを知りました。そのことに気付いたときに、このでんでんむしは、一つ賢く、強くなって生きていくことにしたのです。

## でんでんむしのかなしみ

新美 南吉

一ぴきの でんでんむしが ありました。

ある ひ、その でんでんむしは、たいへんな ことに きが つきました。

「わたしは いままで、うっかりして いたけれど、わたしの せなかの からの なかには、かなしみが いっぱい つまっているではないか」

この かなしみは、どうしたら よいでしょう。

でんでんむしは、おともだちの でんでんむしの ところに やっていきました。

「わたしは もう、いきて いられません」と、

その でんでんむしは、おともだちに いいました。

「なんですか」と、おともだちの でんでんむしは ききました。

「わたしは、なんと いう、ふしあわせな ものでしょう。

わたしの せなかの からの なかには、かなしみが、いっぱい つまっているのです」と、はじめの でんでんむしが、はなしました。

すると、おともだちの でんでんむしは いいました。

「あなたばかりでは ありません。わたしの せなかにも、かなしみは いっぱいです」

それじゃ しかたないと おもって、はじめの でんでんむしは、べつのおともだちの ところへ いきました。

すると、その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの せなかにも、かなしみは いっぱいです」

そこで、はじめの でんでんむしは、

また べつのおともだちの ところへ いきました。

こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて いきましたが、どの おともだちも、おなじ ことを いうので ありました。

とうとう、はじめの でんでんむしは、きが つきました。

「かなしみは、だれでも もって いるのだ。わたしばかりではないのだ。

わたしは、わたしの かなしみを、こらえて いかなくや ならない」

そして、この でんでんむしは、もう、なげくのを やめたので あります。



辛いこと、悲しいことがいっぱいありすぎて、『もうだめだ』といつも思ってしまう』という手紙を寄せてくれた女性がいます。いまも、外に出られず、悩みが頭の中をぐるぐると回っていると言います。

悩みや苦しきは、ひとりで抱え込むと、なかなか答えはみつかりません。誰かが正解を出せるわけでもありません。このでんでんむしは、諦めないで、いろんな「おともだち」と話をして、やがて自分の中で、自分らしい答えを発見しました。このような悩みは、そういうものかもしれません。ゆっくり、ゆっくりでいい、時には寄り道をしながら、途中の風景も楽しみながら、いっしょに歩いていきましょう。「急行でも、各駅停車でも、いつかは目的地に着く」という言葉もあります。「でんでんむしの会」は、そんな思いで、あなたの参加を待っています。